

令和5年度(2023年度)学校評価

学校番号72

長野県木曽青峰高等学校

定時制

学校教育目標	重点目標
新しい生き方、新しい社会の実現を目指し、自らを、地域を、社会を re デザインする人を育てる(re デザイン:繰り返し描き実現して行く) 1 生徒育成方針 ◇育てたい人間像 ○あきらめない心を持ち、創造力豊かに、自分や地域・社会の未来を re デザインしていく人 ○課題解決に向かって、様々な立場を乗り越え、多様な主体とともに力を合わせていける人 ○自然や地域文化を大切にする心を持ち、地球環境の未来を考える視野を併せ持った人 ◇育てたい力 ○幅広い教養とそれによる自分と社会をつなげてみる視野の広がり『教養力』 ○将来の可能性を広げるため、まずその基本固めを志す『基本力』 ○物事を理論的に考え、本質を見抜こうとする『探究力』 ○物事の新しい在り方、モノづくりの明日をデザインして表現できる『構想力』 ○多様な主体を互いに認め合い、他者と力を合わせて課題に取り組む『協働力』 ○主体的に自分や社会の未来を描き続けようとする『志力』	①いじめ・体罰などのない安心かつ安全な学校づくりを進める。 ②学習・生徒指導の両面から生徒一人ひとりを大切にする教育活動を推進し、社会に出てからも通用するような生きる力と豊かな感性をはぐくむ。 ③生徒が希望する進路を実現するための基礎的な学力及びコミュニケーション能力を育み、社会的適応力を高める。 ④さまざまな活動を通し、地域との連携と開かれた学校づくりを推進する。 ⑤「夢に挑戦する学び」への対応を進める。

評価の材料・基準
A. アンケート・評価 【 ア 生徒・保護者 イ 教職員 ウ 学校評議員 エ その他 】 B. 成績 C. データ D. 活動などの状況 E. その他

対象	評価項目(目標番号)	評価の観点	評価の材料・基準
学習指導	授業内容(補充授業を含む)の充実と出席率の向上	② 授業内容、進度などに生徒が満足しているか。 ③ 生徒の学習実態を正確に把握し、基礎的な力を育み、さらに伸ばすような授業にしようとする工夫と改善がなされたか。 ⑤ 基礎学力の教育を単なる学力指導とせず、社会自立に向け必要な土台として位置づけられたか。	A-アイ B C D
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	② 保護者も交えた話し合い等を通じて、労働の意義・職業観等を学んだ上で、自身の進路目標を定められているか。 ③ 進路実現に向けて、早い段階から考えさせることができたか。 卒業する生徒の進路希望を実現できたか。	A-アイ C D
	キャリア教育の推進	② 生徒自身が他人の考えや立場を理解し、自分自身の考えを伝えることが出来るようになったか。 ③ 学ぶこと、働くことの意義を理解し、社会人としての将来設計が出来るようになったか。 ⑤ 自分の将来の夢をもち、その実現に向けて何をすべきか考えることが出来るようになったか。	A-アイ C D
自主活動	クラブ・生徒会活動等自主活動の活性化	③ 生徒の自主活動を支援する態勢は整っているか。 ④ 蒼陵祭の企画、運営をはじめ各委員会の活動や生徒会行事に対して自主的・積極的に取り組めるように支援できたか。	A-アウ D
生活指導	基本的社会性をもった人間の育成	③ 挨拶をはじめ、声かけ等を通してコミュニケーション能力の向上に日頃から手を入れているか。 校舎の内外を問わず、社会的規則と常識を生徒自身が身に付けるような指導を継続しているか。	A-アウエ D
	全職員による生徒の況把握(情報の共有)	① 学校生活で気がかりな点の見られる生徒について状況を把握しているか。 ② いじめなどのない健全な人間関係ができているか。 ③	A-アイ C D
	相談体制の充実発展	① カウンセリングなど生徒の悩みや要望を受け止められる体制が整備されているか。 ② 生徒の実態を把握し、支援の必要な生徒に対し適切な指導がおこなえたか。 ③ スクールカウンセラーと緊密な連携をとることができたか。 ④ 職員研修の充実が図られているか。	A-アイ C D
	家庭・地域社会との連携	① 家庭との連絡を密に取れているか。 ④ 地域社会の関係機関との情報交換を行い、生徒の指導に活かされているか。	A-アウエ D
全般	緊急時保護者への連絡体制の完備	① クラス・クラブでの連絡体制が整い、それが実際に機能しているか。	A-アイ C D
	学校ホームページ・パンフレットの充実	④ 入試選抜、学校行事の内容など、地域に必要な情報を発信できているか。	A-アウエ D
	授業等の公開	④ 保護者、地域住民等に対する授業公開ができたか。 地域に開かれた学校づくりができているか。	A-アウエ D